資料３：追加資料

「県民会議からの提案」概要版リーフレットにおける

ストーリー内容について（たたき台）

１　設定

　　小学生の女の子（仮名：みなちゃん）が、おばあちゃんと一緒に外出し、目的地に着くまでの一連の流れの中で、街や環境、また意識や心のバリアフリーにより無事に目的地に到着する。

２　留意点

* 主人公が、バリアフリー対応を受け、また本人自身にも気づきがあるような流れとする。
* 県民会議からの提案書の柱を踏まえた内容とし、また行政・事業者・県民各々の責務を踏まえた内容とする。ストーリーの中に、提案書の柱をちりばめ吹き出し説明等を行う。
* 意識や心のバリアと、社会や環境のバリアの両方を意識して構成（ＵＤ2020行動計画を踏まえた内容）とする。
* 障がい者、子連れの人、妊産婦、子ども、老人等の要素を入れ込む。

３　ストーリー概要想定

* みなちゃんは小学４年生。おばあちゃんは足腰が弱く車椅子を使っている。今日は、公民館の子ども作品展で展示されているみなちゃんの作品を見に、おばあちゃんと一緒に行く予定。自宅から出発！

＜電車＞

　構内

　　・ホームがわからずうろうろしていたら、通りかかった人が声をかけてくれた。

　　・目や耳の聞こえない人等、様々な方がいること、それぞれアナウンスや電光掲示板、声かけ等も大事なことを考える。

　ホーム

　　・設置されたエレベーターで移動。両手が塞がっていたら近くの人からも配慮を受けて、スムーズに移動できた。ホームドアも皆に安全だ。

・声をかけてもらって嬉しい。子連れの人等も荷物が多いし、障がいやケガ、加齢など歩行が大変な人もいる。皆にエレベーターは必要だな。

＜公民館＞

　建物

・スロープがあり無事に館内に入れた。新しく、他設備もとても使いやすく整備されている。建てる時点で、様々な当事者が参加して意見を聞いて建てたと説明にある。

　窓口

・別の部屋では映画も上映しているみたい。後で観たいな。チケットを買う必要があるが、漢字が読めずに困っていたら、窓口の人がわかりやすく説明してくれた。

　　・わかりやすい説明や、手話、筆談、点字等さまざまなコミュニケーションがあるな。

＜お友達と合流＞

　　・お友達と合流して、おばあちゃんに作品を見せた。

・展示に関する説明は、色が見えやすくて説明もわかりやすいねとお友達。

　　・外では点字ブロックの上に自転車を止めないよう、係員が声かけをしている。

　　・バリアフリーの街づくりを進めるためには、皆の理解と行動が大事と感じて今日は終わり

※参考：「みんなで創るバリアフリーの街づくり～県民会議からの提案～」

東京都「心のバリアフリー」の実践に向けたハンドブック

　　　　神奈川県「街も、私たちも、バリアフリーになろうよ」　他